

⑯ 公開特許公報(A)

昭61-137404

⑮ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑯ 公開 昭和61年(1986)6月25日

H 03 B 5/06

7530-5 J

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑰ 発明の名称 スタート・ストップ発振器

⑱ 特 願 昭59-259332

⑲ 出 願 昭59(1984)12月10日

⑳ 発 明 者 沢 鴻 清 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内  
㉑ 発 明 者 岡 野 正 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内  
㉒ 出 願 人 ソニー株式会社 東京都品川区北品川6丁目7番35号  
㉓ 代 理 人 弁理士 脇 篤 夫

明 細 書

1. 発明の名称  
スタート・ストップ発振器
2. 特許請求の範囲  
増幅回路に形成されている正帰還路にLC並列共振回路を接続し、該LC並列共振回路の共振周波数で発振するように構成した発振器において、前記正帰還路と接地電位間に開閉スイッチ回路と、直流電源が接続されていることを特徴とするスタート・ストップ発振器。
3. 発明の詳細な説明  
〔産業上の利用分野〕  
この発明は、例えばTBC (Time Base error corrector) 等のライトクロック発生用に適用できる電圧制御発振器にかわり、特に初期位相の安定したスタート・ストップ発振器に関するものである。  
〔従来の技術〕  
一般にTBC等においては、外部信号に強制同期する電圧制御発振器(以下VCOという)を用

いてバースト位相に正しくロックしたライトクロックを発生させることが要求される。

第3図は従来のVCOの回路図で、1は正相の増幅器、2は増幅器1の入力端、3は増幅器1の出力端、4は周波数コントロール電圧入力端、5はスイッチである。なお、R<sub>0</sub>は正帰還回路を構成する抵抗である。

増幅器1の出力の一部は、入力端2に帰還されており、その入力端2には可変容量ダイオードC<sub>1</sub>、コイルLからなる並列共振回路、およびスイッチ5が接続されている。そして、可変容量ダイオードC<sub>1</sub>の他端には偏流用のコンデンサC<sub>0</sub>が接続され、その接続部には抵抗R<sub>1</sub>を介して周波数コントロール電圧Vが供給されている。(C<sub>1</sub> < C<sub>0</sub>)

そして、この周波数コントロール電圧Vを調整することにより、可変容量ダイオードC<sub>1</sub>の静電容量が変化し、 $\omega = 1 / \sqrt{LC_1}$  で求められる共振周波数(発振周波数)を可変にする。

この回路で、今スイッチ5がオン状態のとき

は、増幅器1の入力端2が接地され発振が停止しているが、スイッチ5をオフ状態に切り替えると、可変容量ダイオードC1、およびコイルLからなる並列共振回路によって発振がスタートし、第4図(a)の波形図に示すように初期振動が成長した正弦波が増幅器1に入力される。

そして、増幅器1の出力側には第4図(b)の波形図に示したようなクロック信号がVCOの出力として得られる。

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかし、前述したようなVCOは、並列共振回路を構成する可変容量ダイオードC1、コイルLに残存するエネルギー、その他の諸条件によって、発振する正弦波の初期位相が安定せず、第4図(b)の波形図に点線で示したようにVCOのクロック信号の立ち上がり点が不確定になるという問題点がある。

この発明は、かかる問題点を解決するためになされたもので、初期位相の安定なクロック信号を出力するVCOを提供することを目的とする。

増幅器1の出力の一部は抵抗R10、R11を介して正の入力端12aに帰還されている。そして、この抵抗R10とR11の接続部には、可変容量ダイオードC11、コイルLからなる並列共振回路が接続されており、さらに可変容量ダイオードC11と偏路用のコンデンサC10との接続部には抵抗R11を介して周波数コントロール電圧Vが供給されている。

以下、第2図の波形図を参照してVCOの発振動作を説明する。

時点t1でスイッチ15がオンになると前述したように発振が停止した状態になるが、このときに直流電圧16によってコイルLに矢印で示すような電流iが流れる。また、並列共振回路の残存エネルギーは抵抗R11によってすみやかに耗散する。

この状態でスイッチ15を時点t2でオフに反転して発振をスタートさせると、コイルLに流れていた電流iがそのまま可変容量ダイオードC11に流入して、正帰還路がないときはよく知られて

（問題点を解決するための手段）

この発明のVCOは、非発振時に並列共振回路を構成するコンデンサ、または可変ダイオードとコイルに直流電圧を印加しておき、発振スタート時の正弦波の初期位相が確定するようにする。

〔作用〕

非発振時には、並列共振回路に直流電圧が印加され、コイルには直流電流が流れる状態になっているので、スイッチをオフ状態にして発振をスタートするときは、並列共振回路に蓄積されているエネルギーが常に一定の状態になる。したがって、発振位相が確定し、発振始動時のジャクが除去できる。

〔実施例〕

第1図はこの発明のVCOの一実施例を示す回路図で、11は正相の増幅器、12a、12bはそれぞれ増幅器11の正負の入力端、13は増幅器11の出力端、14は周波数コントロール電圧入力端、15はスイッチ、16は直流電源、R10、R11は調整用の抵抗である。

いる減衰振動が発生するが、増幅器11の出力によって振動を持続するようにエネルギーが補充されるから、第2図(a)に示すようにするとい立ち下がりのあと正弦波振動が持続し、時点t2でただちに正常な発振状態になる。したがって、増幅器11から出力される信号は、初期位相が第2図(b)に示すようにスイッチ15のオフ時点(t2)と完全に同期したクロック信号となる。

周波数コントロール電圧Vを変化すると発振周波数が変化することはいうまでもない。

なお、周波数を可変にする必要がないときは、可変容量ダイオードC11に代えて、通常の固定コンデンサを使用し、単なるスタート・ストップ発振器にすることもできる。

また、このときは直流電圧16の極性が逆になってもよい。

〔発明の効果〕

以上説明したとおり、この発明のスタート・ストップ発振器は、発振停止時には発振器を構成する並列共振回路に電圧を印加しているため、発振

スタート時の立ち上がり(または立ち下がり)位  
相が確定するという利点がある。また、増幅器の  
出力端に抵抗を設けて発振停止時の共振エネルギー  
を吸収するように構成すると、短いストップ期  
間の場合でも立ち上がり、および立ち下がり位相  
が確定するという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

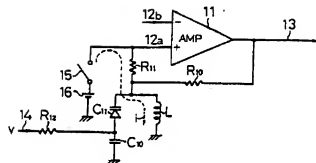
第1図はこの発明のVCOの一実施例を示す  
回路図、第2図は第1図に示したVCOの主要な  
波形図、第3図は従来のVCOの一例を示す回路  
図、第4図は第3図に示したVCOの主要な波形  
図である。

図中、11は正相の増幅器、12a、12bは  
それぞれ増幅器11の正負の入力端、13は増幅  
器11の出力端、14は周波数コントロール電圧  
入力端、15はスイッチ、16は直流電源である。

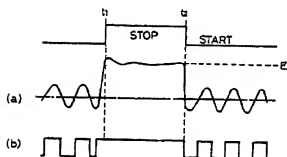
代理人 小林 将 高 (ほか1名)



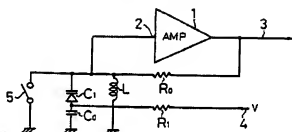
第1図



第2図



第3図



第4図

